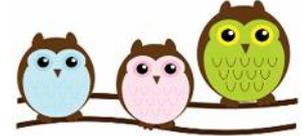


# アスベスト被害を伝えるネットワーク

…絆から縁へ (vol,5) 平成 31 年 8 月 13 日

## 特 集 号

### 千の風になって



私のお墓の前で 泣かないでください  
そこに私はいません  
眠ってなんかいません  
千の風に 千の風になって  
あの大きな空を  
吹きわたっています

秋には光になって 畑にふりそそぐ  
冬はダイヤのように  
きらめく雪になる  
朝は鳥になって  
あなたを目覚めさせる  
夜は星になって  
あなたを見守る

私のお墓の前で 泣かないでください  
そこに私はいません  
死んでなんかいません  
千の風に 千の風になって  
あの大きな空を  
吹きわたっています

千の風に 千の風になって  
あの大きな空を  
吹きわたっています  
あの大きな空を  
吹きわたっています

突然に「千の風になって」をご紹介しましたが、実はこの詩は今回の特集号でお知らせする「フローレンス・ナイチンゲール賞」の受賞者秋山正子先生が 16 年前に教えてくださった詩集です。秋山先生は「中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会」を設立するとき「良い本だから」と一冊の詩集をくださいました。本のタイトルは「千の風になって」です。

そこに書かれている言葉は衝撃的でした。「お墓の前で泣かないでください、そこに私はいません」…とても斬新な言葉でした。しかし「しっかりと前を見て歩こう」と背中を押してくれる言葉でもありました。

その後、哀しみに暮れる遺族の方たちに本を紹介しました。するとまたたくまに、その詩集は手から手を経て、多くの方に読まれました。本は…いまでも旅の最中です(;´▽`)

そうしているうちに、秋川雅史氏の歌で「千の風になって」が多くの人を知ることとなりました。その当時、秋山先生は遺族の心の支えになればと本を紹介し、もうひとつご教示くださいました。それは「傾聴」です。それはまさに私たちの活動の原点となるものでした。その秋山先生が名誉ある受賞をされましたので「日本赤十字社 HP」よりご紹介致します。



2年に一度、顕著な功績のあった看護師等に贈られる世界最高の記章であるフローレンス・ナイチンゲール記章の受章者が、ナイチンゲール女史の生誕の日である5月12日、赤十字国際委員会(ICRC)ナイチンゲール記章選考委員会(スイス・ジュネーブ)から発表されました。今回は、世界19カ国29名が受章し、日本からは竹下喜久子さん(69)、秋山正

子さん(68)が受章しました。竹下さんは、国内外の災害救護活動への画期的な取り組み及び医療施設の看護師への実践教育などの功績が、秋山さんはがん患者への訪問看護実践の経験から地域住民が誰でも、いつでも気軽に利用・相談できる環境整備、地域の保健活動の先駆性が認められました。

今回の受章により、受章者総数は1517人となり、日本からの受章者は110名となりました。

### 【受章者のプロフィール】

秋山 正子（あきやま まさこ）秋山正子

・秋田県生まれ（68歳）・東京都新宿区在住

・現 職：認定特定非営利活動法人 maggie's tokyo 共

同代表理事・センター長（株）ケアーズ白十字訪問看護ステーション・白十

字ヘルパーステーション統括所長、暮らしの保健室室長



・主な功績：自らが所長を務めていた訪問看護ステーションでは、利用者・療養者の尊厳を重んじ、本人の希望を中心に置いて看護を行うとともに、本人を支える家族にも配慮し、近隣や友人のネットワーク構築を重視した、ニーズに即した質の高い訪問看護を展開。

暮らし慣れた地域、家で本人・家族・近隣ネットワークを柔軟に組み立て、在宅ホスピスケアを推進してきた成果として、秋山氏が運営する訪問看護ステーションにおける在宅での看取りは6割を超える。また、訪問看護の現場で抱える課題「状態が悪化してからの依頼に対して『もっと早く関わっていれば』というケース」に対し、英国のマギーズがんケアリングセンターに想を得た「暮らしの保健室」を都内巨大団地の商店街の一面に立ち上げた。

これは、「誰でも、予約なしで、無料で気軽に」立ち寄ることのできる地域の健康よろず相談室で、日本初の取り組みである。現在では、暮らしの保健室をモデルにした活動は、全国に50を超えるまでに広がりを見せている。

また、家庭的でくつろげる心地よい建物・空間にがん詳しい看護師・心理士が常駐し友人のように関わることで、本人がくつろぎ自分の力を取り戻す環境整備として英国のマギーズがんケアリングセンターの日本初の正式なセンターとして「マギーズ東京」を開設。

マギーズ東京の先駆性は、訪問看護のプロとがんの経験者の両方の視点での運営、全国の相談支援の質の向上のために、そのエッセンスを広く提供している点である。

~~~~~

かつて先生は『病気になったのは不幸だけど、子どもたちを立派に育てることが出来た。仲睦まじい家庭を築けた。思い返せばまんざら悪い人生でもなかった』と患者が思えるようになれば』といわれました。そのような先生に、私も心を救われたひとりです。

「お墓の前で泣かないでください」…でもお墓にお参りすると心が安らかになることも事実です。笑顔で日々の生活を感謝し、お墓の中の方々にも安心してもらいましょう。

**アスベスト被害を伝えるネットワーク**  
<https://amiantnet.wixsite.com/mysite> （見えない恐怖アスベスト）